

国語

(解答番号

1

 ～

38

)

※国語は「経済経営学部」「人文学部」および「健康医療学部」は必須。
「バイオ環境学部」は選択。

生活文化の変化に着目するとき、その変化が最もケン^aチヨに現れるのは「日常茶飯事」という言葉もあるように、日常の食文化であり、第一次世界大戦後の一九二〇年代こそ、八世紀以来およそ一二〇〇年近く続いてきた日本^Iの食卓の光景が一変した日本史上の転機となった。

それまで日本人は、個人が所有する膳^{ぜん}の上にご飯を入れた椀^{わん}と汁椀とおかずの皿を並べて食べていた。そして、椀や箸^{はし}などは個人ごとに決められたものを使い、他人の膳の料理に手を出すことは戒められた。鉢や皿に盛られた漬け物などの副菜を取り回す場合でも、自分の箸で直接に取る直箸^{じかばし}を使うことは禁じられ、菜箸^{さいばし}や取り箸を用いることが多かった。

こうした個々人が自前の膳である銘銘膳^{めいめいぜん}を使う食文化から家族が座って食事をするための食卓であるチャブ台を囲んで大皿や鍋からおかずを自由に取るといった食文化へと大きく変わっていったのが、一九一〇年代以降であった。とりわけ一九二三年の関東大震災を経て都市部では急速にチャブ台が普及していった。ただ、都市部でも商家などでは使用人が空き時間を使って食事をするために銘銘膳が残った。他方、チャブ台ではなくテーブルと椅子で食事を取る欧米風の生活様式を取り入れる洋風住宅の家庭も現れた。もちろん、銘銘膳からチャブ台さらにはダイニング・テーブルへの移行時期には、地域や職業などで差がある。農村部までチャブ台が普及したのは一九三〇年代半ばとされるが、一九六〇年代でも銘銘膳を使っていた家庭があった。

そして、高度経済成長期を経た一九八〇年代には、チャブ台よりダイニング・テーブルが主流となっていく。現在では「ちやぶ台返し^A」という言葉は使われるが、チャブ台そのものを知らない世代も多くなってきた。このような銘銘膳からの移行は、西洋風の生活様式の普及であると考えられるかもしれないが、単なる欧米化というよりは中国化とみなせる側面もあった。

(i)、このチャブという言葉は、シツポクうどんやシツポク蕎麦^{そば}そして長崎の郷土料理として知られる「しつぽく」と同じ卓袱という漢字から出たものだったからである。要するに、シツポクもチャブも同じ卓袱をさすものであった。チャブ台をシツポク台・シツプク台・シツポコ台と呼ぶ地方があったのは、そのためである。

それでは、そもそも銘銘膳とはどのようなものであり、いかにチャブ台に替わっていったのだろうか。まず、日本の食文化を東北アジアの中で見ておきたい。

中国では後漢ごろまでは個人用の脚つき食卓の案や脚のない盆状の盤を用いていた。しかし、唐代以降、シルクロード経由で伝わったテーブルと椅子を利用する食卓形式となった。これによって主食は個人用に取り分けておき、副食物や汁などは食卓中央に置いた大きな食器から各自が箸や匙で取る食事作法が生まれた。この作法はチャブ台やダイニング・テーブルによって日本でも採り入れられる。

(ii)、それ以前の日本と朝鮮半島では、基本的に個人別の食卓に予め配膳し、座って食べる作法が続いてきた。朝鮮では一人用の膳である床や小盤を用い、床暖房の温突の上に座って食べる独床が一般的で、牀や榻という座具と寝台を兼ねた低い台に座ることもあった。大形の食卓である周盤や兼床や交子床を囲んでの宴会も行われたが、椅子・テーブル式の食卓とはなかった。

日本では平安時代から台盤(大盤)という脚つき横長の台が食事の際して用いられた。ただ、これは食卓そのものというよりも食器や料理を載せて、膳を準備するための台であった。この台盤を置く場が台盤所であり、そこから煮炊きや調理・配膳をする部屋そのものをさして台盤所と呼ぶようになり、鎌倉時代ごろから略して台所と称されるようになった。

(iii)、食器や食品をのせる盤台として一般には折敷や盤などが早くから用いられた。オシキは、「木の葉を折り敷いて食物を置く」あるいは「食し物を載せる敷物」から来たといわれる。『広辞苑』では折敷について、「(「折り敷く」の連用形から) 四方に折りまわした縁をつけた、へぎ製の角盆または隅切盆。食器や神饌をのせるのに用いる」と説かれている。折敷を小型化し、蓋をつけると駄弁などで使われていた削木製の折箱となる。折敷は足がなく縁が低かったが、これに脚や台をつけて食事に便利な高さにした懸盤や高い脚のある皿様の高坏などが膳と総称されるようになった。このような膳は一人ひとりがもつ食卓という意味で銘銘膳(各自膳)と総称されるが、その形は身分・職業・地域・時代などによって多様な変化を遂げていた。

そして、一八世紀ごろからは台の部分箱となる箱膳が普及し、箱の中に使用者の食器と箸を収納する形式となった。箱膳が好まれたのは、同じ家族の中でも食器と箸は共用しないという食習慣に適したからであった。箱膳は各人が戸棚などから出し入れをし、食後はご飯碗に注いだお湯やお茶で碗や箸を洗い、その洗い汁を飲んで片づけていた。個人用の食器や箸を自ら管理し、共用しなかった背景には食器や箸には使用者の人格や思いが宿っており、他の人が使うと穢れる

といった観念があったためであろう。死者が出ると枕元に一膳飯を盛って箸を一本立て、出棺に際して故人が使用していた茶碗ちやわんを割り、箸を折るという仕来りしきたがあるのは、椀と箸がその人だけのものだからと私も幼いころに教えられた。現在の衛生観念からすれば椀や箸を湯茶で洗いすすで布巾で拭くだけで、丁寧に洗うのは年に数回だったのは不潔と思われるかもしれない。しかし、西洋料理や中華料理などのように油脂分が多い料理が飲食されず、上水道もなかった時代には貴重な水で食事ごとに洗う必要は感じられなかったのである。

そして、西洋料理や中華料理などが家庭でも調理されるようになると、各自に配膳するよりも食卓中央に大皿や大鉢に並べて出す方が料理も冷めずカンペンbだと考えられるようになった。また、都市化が進み、広い家に住めない工場労働者や俸給生活者が増えると各人の箱膳を収める膳棚を備えるのも難しかった。そこで注目されたのが卓袱料理店しっぽくなどで座って使うように改良されていた脚の短い食卓を、家庭用飯台Ⅱチャブ台として使うことであつた。

(iv) 脚を折りたためるチャブ台が現れると、用が済めばたたんで部屋の隅に立てかけ、押し入れから蒲団ふとんを出して敷けば同じ場所が寝室となる便宜(注)さが重宝された。(v) チャブ台が普及していくと、チャブ台は家族が織りなす悲喜交々の日常生活を象徴する生活用具となる。小津安二郎や成瀬巳喜男みきおなどが監督した映画や向田邦子脚本のテレビドラマ「寺内貫太郎一家」などで、あるいは漫画『巨人の星』(梶原一騎・原作、川崎のぼる・作画)などで描かれたチャブ台やチャブ台返しイは、庶民生活の明け暮れを描いて共感を呼ぶ必須アイテムだった。

このことはチャブ台の普及が、単に日本人の食事作法を変えたという以上に大きな意識革命をもたらしたことを示している。チャブ台は、日本人の食文化のマナーや食器類を洗うという衛生観念を転換させただけではなかった。チャブ台は、何よりも家庭内の人間関係を変えるケイキ○となった。

銘銘膳の時代には、膳自体にも形式や塗りなどに格差があり、それぞれの人が座る場所も男女や年齢や雇用関係などによって定められた。しかし、チャブ台とりわけ丸いチャブ台を家族で囲む時、銘銘膳の時代ではありえなかった夫婦や親子が性差の別なく隣り合って座るという事態が生まれる。^{III}位置と距離によって作られていた位階秩序は、同一平面を囲んで横並びに転ずる。チャブ台は、銘銘膳が作っていた序列と性差別の空間を序々に打ち壊したこわ。さらに、座る位置も近づいて家人それぞれの表情の機微cも分かるようになり、食事中は話をしないといった戒め

も次第に薄れていった。

こうしたチャブ台がもつ効用を「食事の時は、即ち家族会が開ける」ことにありとして、いち早く自らが掲げる平民主義の立場から推奨したのが社会主義者の堺利彦であった。

堺はチャブ台を家族全員が囲むこと^Dで家庭内の民主主義が実現して家庭の団欒^{だんらん}がもたらされ、それこそが女性の自立を促す第一歩になるとして、次のように訴えた。

一家団欒の景色は最も多く食事の時にある。此点^{このてん}から考えれば、食事は必ず同時に同一食卓においてせねばならぬ。食卓と云^いえば、丸くても四角でも大きな一つの台の事で、テーブルと云つても善^よい、シッポク台と云つても善^よい、とにかく従来の膳というものを廃したいと我^{わが}輩^{はい}は思う。

（「内務大臣としての事務（二）」『家庭の事務』内外出版協会、一九〇一年）

堺はこのようにチャブ台やテーブルを同時に家族全員が囲んで同じ物を食べることによって、妻子が家長の目を恐れながら、あるいは別間でコソコソと食事してきた弊風^Eを廃し、家族全員が自由に話し合える「平民主義の美しい新家庭」を作することを勧めたのである。

IV
チャブ台は、デモクラシーの思潮が家庭の居間に入っていく窓口ともなった。

個人的な記憶でキョウシ^dュクだが、一九六〇年代に小・中学生だった私は早朝に神棚と仏壇の水を替え、炊き上がった御飯を最初に仏飯器に盛って供え、お祈りをするのが与えられた日課だった。

そして、チャブ台に向かい箸を合わせた両手に挟んで「いただきます」と唱えて食事を始めたが、一連の作法によって食事は家族と共にするだけでなく神仏や御先祖様と一緒にいただくものであるように思っていた。もちろん、チャブ台を囲んで家族がそろって食事をする共食が数十年前に始まったことなど知る由もなく、家族間で自由に話していた。

しかし、テレビ放送が始まるとテレビが見える位置に座るようになり、視線は家族間ではなくテレビ画面に集まり、話題もそこから生まれるようになった。^V家庭団欒を象徴するのは、チャブ台そのものではなくテレビとそこに映し出されるチャブ台となった。

そして現在、テレビからは一人鍋のCMが流れる。単身者はコンビニ弁当をスマホ片手に食べる。家族そろって同時に食べるには、誰もが時間に追われている。飲食店や大学食堂でも、「お一人様」席や間仕切りのある「ぼっち席」で誰の視線も気にせずに食べることを好む人が増えた。

銘銘膳から共食のチャブ台やダイニング・テーブルへとスィイしてきた、この一世紀の日本の食事文化。それは一〇〇年近く前に始まった「新しい生活様式」の採用によるものであった。

アフター・コロナ時代の「ニューノーマル（新しい通常）」の中で、外食よりも宅配（出前）が増え、オンライン飲み会やZoom飲食会などが広がる中で、食文化はどのような新たなスタイルを生み出していくのだろうか。

（山室信一「モダン語の世界へ―流行語で探る近現代」による）

（注）便宜さ——ここでは「便利さ」のこと。

問一 文中の傍線部a～eに相当する漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

1
5

a ケン
チヨ

1

- ① そこにとどまったことはケンメイな判断だった
- ② ケンブンを広めるために旅行する
- ③ 長年の功労をケンショウする
- ④ 表面をよくケンマすると輝いた
- ⑤ 別の役職もケンニンしている

b カン
ベン

2

- ① 道路がカンボツして事故が起きた
- ② 中国ではカンタイジが使用されている
- ③ センニユカンを持って物事を見る
- ④ 十五年前に息子をカンドウした
- ⑤ 血液のジュンカンが良くなる運動

c ケイ
キ

3

- ① ケイヤク条件が提示された
- ② 伝統をケイショウする人々がいる
- ③ 彼は芸術にもゾウケイが深い
- ④ 雑誌に小説がケイサイされる
- ⑤ ケイテキを鳴らしながら通り過ぎた

d

キョウシユク

4

- ① 紳士シユクジヨが集まった
- ② 儀式はゲンシユクに執り行われた
- ③ つらいシユクメイを負って生きる
- ④ 原典の五分の一にシユクヤクされた
- ⑤ 盛大なシユクエンに参加する

e

スィイ

5

- ① 必要な部分だけバツスィした
- ② 任務をスィコウする
- ③ 地域産業がスィタイする
- ④ 一時間後にマスィから覚めた
- ⑤ 彼女のジャスィに過ぎなかった

問二

傍線部A～Eの語の文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。 解答番号は、

6

10

A

穢れる

6

- ① 清潔感が損なわれる
- ② 災厄がふりかかる
- ③ 感染症などにかかりやすくなる
- ④ 物質的ではない何かが侵される
- ⑤ 神聖なものが不浄なものになる

B

重宝された

7

- ① 大切なものとしてしまい込まれた
- ② 使いやすいものとしてよく使用された
- ③ 重々しいものとして邪魔にされた
- ④ 贈答品として採用されることが多かった
- ⑤ 改良が重ねられた

(次頁に続きます)

C 機微

8

- ① 機器でしか測量できない僅かな動き
- ② 裏に隠されている感情
- ③ すばやくて無駄のない動き
- ④ はつきりと示される意味
- ⑤ 微妙な違いや趣

D 家庭内の民主主義

9

- ① 家事の担い手である母親をリーダーとする考え方
- ② 家族全員で同じ政党を支持しようとする考え方
- ③ 家族がみな平等で各人の自由を尊重する考え方
- ④ 稼ぎ頭である父親の権威を尊重して団結する考え方
- ⑤ 家族とはいえ干渉し合うのは良くないとする考え方

E 弊風

10

- ① 悪い風俗や習慣
- ② どこにでも見られるありふれた慣習
- ③ 守られるべきだとされる規範的な風習
- ④ 知らず知らずのうちに根付いたやり方
- ⑤ 庶民特有の誤った思い込み

問三 空欄（ i ） （ ） （ v ）に入る最も適当な語を、次の各群の①～⑤のうち

から、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、（ i ）が 11、（ ii ）

が 12、（ iii ）が 13、（ iv ）が 14、（ v ）が 15。

11

- ① また
- ② さらに
- ③ そして
- ④ なぜなら
- ⑤ もしも

12

- ① 仮に
- ② それに
- ③ 結局は
- ④ どうせなら
- ⑤ かし

13

(iii)

- ① どうしても ② 他方 ③ では ④ さながら ⑤ だが

14

(iv)

- ① 万一 ② つまり ③ さらに ④ どうも ⑤ かならず

15

(v)

- ① むしろ ② こうして ③ たとえば ④ しかし ⑤ もしくは

問四 傍線部Ⅰ「日本の食卓の光景が一変した」とあるが、どのように変わったか。本文で述べ

られている内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号

は、
16。

- ① 時代とともに個人の生活が忙しくなり、家族といえども全員そろって同時に食事をする機会がそれまでと比べて格段に減った。

- ② 以前は家族で全ての食器を共用していたので、専用の食器という概念がなかったが、箸とご飯茶碗は個人専用のものを使うようになった。

- ③ 食事中に話することは戒められていたが、茶の間にテレビが導入されたことにより、食事中でも家族で番組などについてよく話すようになった。

- ④ それまで基本的な食事を一人用の小さな専用台に置いて食べていたが、家族全員で同じ一つの大きな台の上に置いて食べるようになった。

- ⑤ 以前は家族の中で家長の位置などが厳格に決まっていたが、チャブ台が取り入れられてからは、家族全員が自由に座る位置を決められるようになった。

(次頁に続きます)

問五 傍線部Ⅱ「単に日本人の食事作法を変えたという以上に大きな意識革命をもたらした」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

17。

- ① チャブ台を使えば、各自に料理を盛り付ける手間を省けるだけでなく、脚を折りたたんで立てかければスペースの有効利用もできて、人々を個人主義という方向に向かわせた。
- ② チャブ台を使うことによって、それまで銘銘膳によって明確になっていた上下関係が見えなくなり、物理的・精神的な距離も近くなって、結果的に家族平等へと向かった。
- ③ チャブ台を使って大皿に全員分の料理を盛るようになると、食器の洗い物が減り、食事ごとに洗えるようになったので、衛生観念が近代的なものになった。
- ④ 有名な映画やドラマ、漫画などで、チャブ台が一家団欒の象徴とされたことで、家族像に対する封建的なイメージが打ち壊され、家族平等が実現した。
- ⑤ 箱膳を収める膳棚を備えるのも難しい狭い家でも、チャブ台によって家が広く使えるため、社会の貧富差を小さくして民主主義を進めることとなった。

問六 傍線部Ⅲ「位置と距離によって作られていた位階秩序」の説明として最も適当なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

18。

- ① 上座、下座のように部屋のどこに座るかによって序列が決まったということ
- ② 男女、親子、雇用関係などによる親疎が座る場所の基準であったということ
- ③ 塗りや形式など膳自体の格によってどこに座るかが決まったということ
- ④ 銘銘膳を使うために夫婦や親子でも距離をとって座ったということ
- ⑤ 性別、年齢などによる差別が座る場所に反映されていたということ

問七 傍線部Ⅳ「チャブ台は、デモクラシーの思潮が家庭の居間に入っていく窓口ともなった」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

19。

- ① チャブ台を取り入れることで、家庭で話し合う機会が増え、当時の潮流であるデモクラシーを主張する政党を家族みなで支えようという相談がまとまりやすかったということ
- ② チャブ台を取り入れることで、家族みんなが平等な立場で自由に発言するのが当たり前であるという考え方が家庭に入ってきたということ
- ③ チャブ台を取り入れることで、家族全員が同じ場所、同じ時間に食事をとらなければならないという軍隊のような雰囲気が強まったということ
- ④ チャブ台を取り入れることで、家長の目が家族全員にくまなく行き届き、デモクラシーに反するような思想を持つことについて厳しく監視されるようになったということ
- ⑤ チャブ台を取り入れることで、家庭の居間が開放的な雰囲気になり、デモクラシーの思想を持ち込むような来客も増えたということ

問八 傍線部V「家庭団欒を象徴するのは、チャブ台そのものではなくテレビとそこに映し出されるチャブ台となった」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号は、

20。

- ① 家庭のチャブ台はテーブルと椅子に取って代われ、家庭団欒の象徴はもはやテレビドラマの中に登場するチャブ台しかなかった。
- ② 家庭のチャブ台はただの食卓となり、家族の視線が集まるテレビ画面に反射して映りこんだチャブ台の映像こそが家庭団欒の象徴となった。
- ③ テレビドラマの中で使用されるチャブ台が、古き良き時代の家庭団欒を象徴するだけで、実際の家庭から団欒の象徴は姿を消した。
- ④ 家庭団欒の象徴としての機能はテレビに取って代われ、そのテレビには家庭団欒の象徴としてのチャブ台が映し出されることもあった。
- ⑤ 家庭団欒の象徴がチャブ台からテレビに変わったので、テレビを正面にして座ることで会話もなくなり、家庭からは団欒そのものが消えた。

(次頁に続きます)

問九 傍線部ア「ちゃぶ台返し」とイ「チャブ台返し」で表記を変えている理由として考えられる最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号は、

21。

- ① この文章のテーマとなるキーワードなので、目立つように平仮名にしたり片仮名にしたりして変化をつけるほうが、注目されやすいという意図があるから
- ② 「ちゃぶ台」は日本文化にすっかりなじんだ食卓を表現する言葉として平仮名を使っているが、「チャブ台」は「卓袱」の中国語発音を意識して片仮名を使っているから
- ③ 「ちゃぶ台」は慣用表現の中の比喩であって実際の食卓を指さないが、「チャブ台」は実際の食卓を指すから
- ④ 「ちゃぶ台返し」という言葉に使われる「ちゃぶ台」は、「チャブ台」とは全く別の関係のないものなので、区別しなければならないから
- ⑤ 「ちゃぶ台返し」という言葉は、「チャブ台」が日本の食卓として採用されるより前からあったので、伝統的な平仮名を用いて書く必要があると考えたから

問十 次の①～⑤のうちから、本文の内容に合致するものを一つ選びなさい。 解答番号は、

22。

- ① 箱膳を使用するようになって個人の食器を自ら管理するようになったので、同じ家族の中でも箸と茶碗を共用しないという習慣が生まれた。
- ② 「台所」という言葉が使われ始めたのは鎌倉時代ごろであり、それより前には台盤を置く場所という意味の「台盤所」という言葉が使われていた。
- ③ 社会主義者の堺利彦は、「平民主義の美しい新家庭」のために、個人の自由を尊重した従来 の膳を使用することを国民に向けて推奨した。
- ④ 中国と朝鮮半島では、唐代以降にシルクロード経由で伝わったテーブルと椅子を使うようになったが、日本でテーブルと椅子が導入されたのは近代以降である。
- ⑤ 日本では銘銘膳という個人用の食卓を使用していたが、近代に西洋文化が流入したことにより、チャブ台を使用して食卓を家族で共有するようになった。

問十一 この文章の構成内容についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号は、

23。

- ① 古代日本と中国の交流を中心に、食習慣がいかにして流入してきたかを詳しく述べた後、近代以降は欧米からの影響が強かった点について検証を行っている。
- ② 銘銘膳とチャブ台の特徴を挙げて比較し、チャブ台の利点について述べた後で、ダイニングテーブルと椅子にとってかわられた経緯を資料とともに記している。
- ③ 日本の近代社会に民主主義をもたらしたのはチャブ台にほかならないとし、様々な資料を提示して主張を裏付けている。
- ④ 東北アジアにおける食卓の変遷を丁寧に追い、チャブ台の導入による日本の家庭での考え方の変化について資料や思い出をまじえながら記述している。
- ⑤ 近代以降、欧米から大量の文化流入があったにもかかわらず、チャブ台での食事を続けることにより家族団欒が守られたことを、思い出とともに語っている。

二

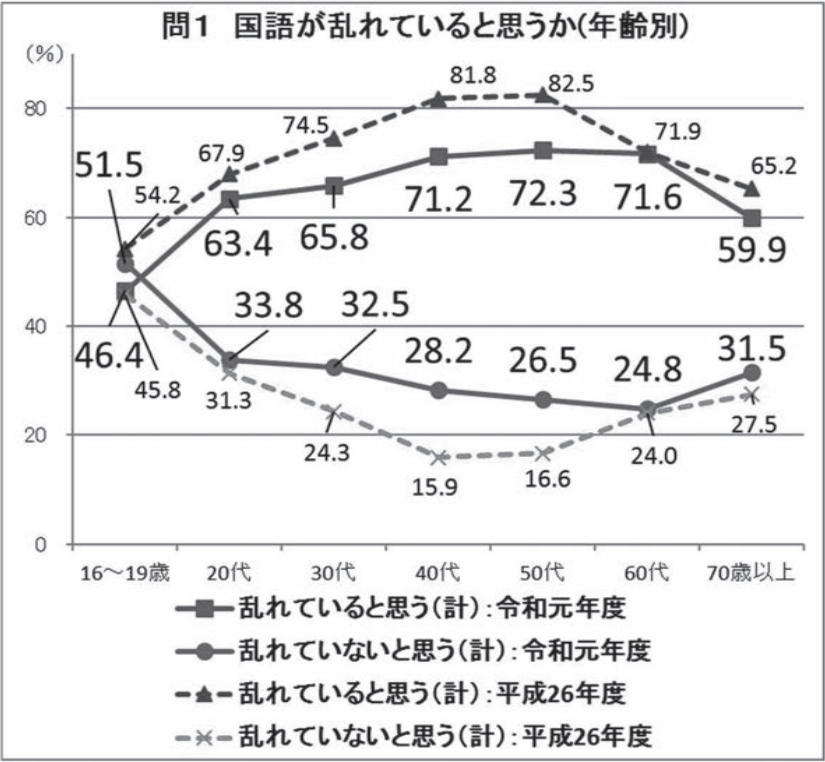
次の問一～問三に答えなさい。

問一 グラフ1を見て、次の文章の(Ⅰ)～(Ⅴ)に入るものとして最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

24

28

【グラフ1】



(https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/92531901_01.pdf)
『令和元年度「国語に関する世論調査」の結果の概要』(文化庁)参照

グラフ1は、令和元年度に「ふだんの生活の中で接している言葉から考えて、今の国語は乱れていると思うか」を尋ね、年齢別に前回(平成26年度)の調査結果と比較したものである。

今回の調査では、「乱れていると思う(計)」の割合は(Ⅰ)。前回の調査と比較すると、「乱れていると思う(計)」の割合はほとんどの年代で減少傾向にあり、(Ⅱ)。

一方、「乱れていないと思う(計)」の割合を見ると、(Ⅲ)。前回の調査と比較すると、(Ⅳ)。

グラフ1全体を見ると、(Ⅴ)と言えるのではないだろうか。

24

（Ⅰ）

- ① 全ての年代で過半数を上回っている
- ② 20代から70歳以上で6割を超えている
- ③ 40代から60代で7割を超えている
- ④ 年齢に比例して割合も高くなっている
- ⑤ 30代から50代で約3分の1を占めている

25

（Ⅱ）

- ① 中でも30代から50代では、おおそ10ポイントずつ増加している
- ② 中でも30代から50代では、それぞれ約10ポイント減少している
- ③ 中でも30代から50代では、10ポイント未満の増加にとどまっている
- ④ 中でも30代から50代では、減少幅が小さいと言える
- ⑤ 中でも30代から50代では、軒並み10ポイント以上減少している

26

（Ⅲ）

- ① 年齢に比例して割合は低くなっている
- ② 10代で最も低くなっており、60代で最も高い
- ③ 全ての年代で50％以下である
- ④ 年齢に比例して割合も高くなっている
- ⑤ 10代で最も高くなっており、60代で最も低い

27

（Ⅳ）

- ① 年代別の傾向は前回同様であり、70歳以上で最も高く、10代で最も低い
- ② 全体的に減少傾向であり、特に40代で12ポイント以上減少している
- ③ 全体的に増加傾向であり、特に40代で12ポイント以上増加している
- ④ 全体的に減少傾向であり、特に60代で12ポイント以上減少している
- ⑤ 全体的に増加傾向であり、特に60代で12ポイント以上増加している

（次頁に続きます）

28

(v)

- ① 言葉遣いについては全体的に規範意識が高まる傾向にある
- ② 言葉遣いについては高齢者であればあるほどルールに厳しい
- ③ 言葉遣いについては流行語の増加を反映して乱れを感じる人が増加している
- ④ 言葉遣いについては寛容な見方が広まりつつある可能性がある
- ⑤ 言葉遣いについては若年層ほど乱れを感じている人が多い

問二 次のア～オの意味に合う慣用的表現として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちか

らそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

29

～

33。

29

ア 飽きて不快になる

- ① 鼻で笑う
- ② 鼻につく
- ③ 鼻であしらう
- ④ 鼻を折る
- ⑤ 鼻を明かす

30

イ 食べ物などが腐りやすい

- ① 足が出る
- ② 足が付く
- ③ 足が乱れる
- ④ 足が早い
- ⑤ 足が遠のく

31

ウ うわさになる

- ① 口に任せる
- ② 口を利く
- ③ 口をはさむ
- ④ 口に上る
- ⑤ 口が過ぎる

32

エ ちらつと聞く

- ① 耳につく
- ② 耳に留める
- ③ 耳にはさむ
- ④ 耳を傾ける
- ⑤ 耳が早い

33

オ 処置や対策に困る

- ① 手を焼く
- ② 手を組む
- ③ 手を抜く
- ④ 手を回す
- ⑤ 手を切る

問三 次のコラムは、▼を付した最初と最後の段落以外は順序が正しくありません。これを読んで、後の問いに答えなさい。

▼ 映画「世界の中心で、愛をさけぶ」では、カセットテープがだいいじな役割を演じている。小さなまちにすむ高校生のアキとサクは、交換日記のようにテープでお互いの声をやりとりし始める。じかに話すよりも正直に気持ちと言えるからと。

① そんなふうに思いを巡らせたのは、ある訃報^{ふほう}に触れたからだ。60年代にカセットテープを開発したオランダの技術者が亡くなった。フィリップス社で製品開発部長だったルー・オッテンスさん。94歳。

② 好きな人への告白。家族への誕生日メッセージ。当方も海外留学中の友人に、とりとめのない話を吹き込んで送ったことがある。声でも音楽でも手作りの感じがしたのは、録音ボタンをぎゅっと押す感触のせいだ。

③ それまでのテープは扱いにくく高価だった。米公共ラジオによると、オッテンスさんはポケットに収まる薄い木片をもとに、あるべき未来のテープを考えたという。簡単に持ち運べるメディア。その着想は遠くスマホにもつながっているのかもしれない。

④ 「自己紹介してみようと思います。好きなものは、調理実習、夏の麦茶、白のワンピース……」とアキ。サクは「プールの授業、冬のクワガタムシ……」。舞台は1980年代。同じようにカセットを手紙代わりに使った方もいるのではないか。

▼ インターネットでたくさんの音楽が聴ける今も、（X）にはなっていない。カセットで新譜を出す動きが国内外にあるという。たしかな手触りを求める気持ちは、わかる気がする。

（天声人語（朝日新聞、2021年3月13日）承諾書番号（22-0874）朝日新聞社に無断で転載することを禁止する。）

（次頁に続きます）

(1) それぞれの段落を正しく並べると、順序はどうなりますか。それぞれの位置に入る最も
適当なものを、①～④のうちから一つずつ選びなさい。(完全解答) 解答番号は、

37。

34

▼最初の段落――()――()――()――()――()――()――▼最後の段落

34

35

36

37

(2) 空欄(X)に入る最も適当な語句を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答

番号は、

38。

① 宝の持ち腐れ

② 前世紀の遺物

③ 無用の長物

④ 夏炉冬扇

⑤ 贅沢品ぜいたくのたぐい

以上で問題は終わります。